

新たな予算獲得

新たな共用システム導入支援プログラムに採択されました

生命科学・医科学系研究設備・機器管理運営委員会委員長 菅井 基行

文部科学省の平成28年度先端研究基盤共用促進事業に大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門・応用生命科学部門・統合健康科学部門から応募した「新たな共用システム導入支援プログラム」が採択されました。本学からは本研究院を含め3件が採択されています。本事業は、これまでに競争的資金等により導入され、研究室単位で分散管理されていた研究設備・機器群を、研究組織単位のマネジメントの下で一体的に管理・運営する共用システムの導入を支援するもので、システム導入の経費、保守管理費、一部の人件費が支援されます。

今年度においては、霞地区の共用システムを統括する運営委員会を設置し、時限ではありますが、共用機器の操作支援等を行うスタッフを配置したところです。また、歯学部中央研究室に設置しているレーザーマイクロダイセクションシステムのアップグレードを行う予定としており、今後も引き続き多数のユーザーが見込まれる汎用性の高い研究設備等の保守や復活再生等を行う予定としております。

本事業での取組を通して、霞地区の研究設備・機器の共用化を推進していくとともに、共用機器の効率的な維持管理、専任スタッフによる利用支援を行うことにより、霞地区の研究の活性化、研究力強化につなげて参りたいと考えていますので、共用機器の積極的なご利用をお願いします。



今年度アップグレードを予定しているレーザーマイクロダイセクションシステム

編集後記

百年後の世界はどうなっているだろう。おそらくどの国でも人口の増加にブレーキがかかって少子化が進み、どこの大学も学生の獲得に苦慮しているに違いない。特に日本では、今のペースだと22世紀には人口が半分になり、その半分近くを高齢者が占めるようになりそうな勢いだ。それに合わせて国内の大学が淘汰されていくのは不可避のようにも思える。こんな状況で広島大学が「100年後にも世界で光り輝く」ためにはどうすればいいのか？それには、海外から多くの若者が魅力を感じて自らやってくる大学になるしかないだろう。幸いヒロシマの国際的な知名度は高い。人類初の原爆で消滅したけれど、国際平和の象徴として力強く復興した都市として。この類まれな魅力を高めて、百年後には平和と自由を希求する世界の優れた若者がこぞって英知を持ち寄る学問の府になれたらいいなと夢見ている。BHS News を読んでくださっている皆様、どうぞ夢叶う良いお年をお迎えください。

2016年11月 広報委員 保田 浩志

2016年（平成28年）11月発行

編集発行 広島大学大学院医歯薬保健学研究院・医歯薬保健学研究科広報委員会

住所 〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号

電話 (082) 257-5013（霞地区運営支援部総務グループ）

E-mail kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

URL <http://hiroshima-u.jp/bhs>